

東京YMCA

1/2

2020年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

阪神・淡路大震災25年

災害とYMCAの使命

共に泣き、共に喜ぶ コミュニティーを創る



福田 信章さん

東京災害ボランティアネットワーク事務局長。各地で防災に関する講演等を行っているほか、三宅島噴火、東日本大震災、伊豆大島台風など数々の災害支援活動に携わっている。

●菅谷 まずはお二人の25年間についてお話を聞かせてください。

●大江 私は当時、神戸YMCAで予備校の担当をしていました。1月17日は大学入試センター試験の2日後でしたが、進路指導よりも生徒の安全確認が最優先となりました。その合間に神戸YMCAが運営していた災害ボランティアセンターの支援を行いました。支援の最前線にいたスタッフたちは様々なストレスを抱えて心身ともに疲れ果て、限界を超えていました。現場で苦悩する仲間を支援しきれなかった無力感もあって私自身も燃え尽きを経験し、以来「支援者のケア」が私のテーマになりました。

震災1年半後にはサンフランシスコで災害救援スタッフのための心のケア研修を受講。また東日本大震災の後に2回目の研修を受け、帰国後は東京消防庁で講習を行うなど、支援者のトラウマと

●福田 私は当時21歳で、都内の大学に通いながら警備のアルバイトをしていたのですが、震災後に神戸で警備員が不足



大江 浩さん

日本YMCA同盟主事。1980年～神戸YMCA職員となり、阪神・淡路大震災後から災害支援者のストレスケアに携わる。日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)にも勤務し、海外の災害支援も行なった。

25年の月日から見えてきたもの

1995年1月17日の阪神淡路大震災から25年が経ちました。25年の月日を経て見えてきたもの、そしてまた今後への提言について長く災害に携わってきた福田信章さんと大江浩さんに聞きました。

(聞き手・東京YMCA総主事 菅谷 淳)



したため神戸に派遣され、県営住宅の警備をしました。その建物に「SVA(曹洞宗国際ボランティア会) II 現・公益社団法人ボランティア国際ボランティア会」の事務所があって、多くのボランティアが活躍していたことから、自分も手伝うようになりました。ボランティアをしたこともSVAに出会ったことも、まったくの偶然でした。被災地ではもともとあった地域の課題が浮き彫りになって出てきていて、その課題に関わることは大変でしたがやりがいもあったので、3月以降もボランティアを続けました。でも、ある仮設住宅で糖尿病のおばあさんのお宅を訪問していたとき、「私は震災前から一人暮らしで寂しかった。私みたいなおばあさんは東京にもいるんだよ」と言われたことから、東京でもやらなければならぬと気づいて帰京。都内の学生たちと「Kyan Tokyo(えーやん東京)」というグループを立ちあげて被災地の声を伝える活動を始めました。2002年からは「東京災害ボランティアネットワーク」の事務局スタッフとなり、防災プログラムなどを行っています。

非常時に活きた日常の経験

●菅谷 「ボランティア元年」ともいわれた阪神淡路大震災でしたが、YMCAにとってはどんな契機になったのでしょうか。

●大江 神戸YMCAは3つの災害ボランティアセンターを開設し、数万人のボランティアを受け入れました。避難所も運営し、その後は仮設住宅をサポートするなど、時期に応じて形を変えながら支援を広げていきました。

た。けれどもYMCAは、1923年の関東大震災や1959年の伊勢湾台風など、古くから災害支援を行ってきた歴史があるので、YMCAにとっては「ボランティア元年」ではありませんでした。普段から多くのボランティアと共に活動している団体としてごく自然に動いたのです。

●菅谷 国内外のYMCAも、募金やスタッフ派遣などに協力しました。

●大江 そうですね。当時の日本YMCA同盟総主事・宮崎幸雄さんは、世界YMCA同盟で難民事業部長をした経験を活かし、国内外のネットワークによる支援を組織化したり、被災者への支援と被災したYMCAへの募金を分ける仕組みを提案されるなど、被災地だけではできない体制作りがされました。それは、その後の東日本大震災や熊本地震での支援活動の原型となって、受け継がれています。

また宮崎さんの尽力で「難民を助ける会」というNGOからブレハブの「サニボランティアハウス」が寄贈されたのも大きなことでした。ボランティアが宿泊したり研修を受けたりできたため、YMCAならではの支援拠点になりました。

●菅谷 東京YMCAからも多数のスタッフや会員を派遣しました。

●大江 特徴的だったのは、YMCAの日常活動が支援に活かされたという点です。限られた水と食糧を分かち合って生活する避難所の暮らしは、毎日が「キャンプ」でした。安全管理、危機管理、またボランティアのマネジメントなどさまざまな面で組織キャンプのノウハウが役立ちました。毎日数百人のボランティアにオリエンテーションをして支援現場に送りだし、夜には振り返りの時間をもってコーディネートしていくことも、キャンプでの実践が活かされたのでした。

●福田 私は神戸で色んな団体の活動を見ましたが、YMCAのボランティアはちゃんとピンスを着て、マナーがいい印象がありました。その後の災害ボランティアセンターの原型になったと思います。また地元の人には震災前からYMCAを知っていたので、仮設住宅でも「あつYMCAさんだ」とすぐに受け入れられていました。日ごろから信頼を得ていること、影響力をもっていることが、震災後の活動に直結していると思います。

●大江 長田区の西神戸YMCAは、震災後にボランティアセンターを開設しましたが、震災以前から保育園をはじめ青少年事業などを行っていたので、地域住民や行政の信頼を得ていました。長田区は福祉ニーズのある地域でしたが、ここで長く活動してきたことは大きな財産でした。

赤三角

年末にNHK歴史ヒストリア「特攻なぜ若者は飛び立ったのか？」を見た。22歳で生を終えた上原良司の生い立ちと特攻に至る経緯が紹介された。出陣前夜に遺した「所感」には、「自由の勝利の確信」と「権力主義の国家が最後に敗れることは明白な事実」と告白している。「特攻は」

Ⅱ 2面へ続く

主事 島田茂

【防災まち歩き】



【東日本大震災】 2011年3月11日



東日本大震災で東京YMCAは、主に石巻市で泥かきなどの救援ワークキャンプを行なったほか、長期的な支援活動として「親と子ののんびりリフレッシュキャンプ」(写真左)、「歌のひろば in 石巻」(写真右)ほか小学校での水泳指導や高齢者グループホームでのレクリエーションなどを開催してきました。

【関東大震災】 1923(大正12)年9月1日



東京YMCAの震災救護部テントに掲げられた、賀川豊彦直筆の旗。

関東大震災の際には、東京YMCAは全国約200団体の支援を受けて救護所を設け、延べ45万人に炊き出しや配給をしました。焼け残った体育館を避難所として開放したほか、交通網の復興のため、200人のバス運転手を養成もしました。

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

象に「リフレッシュキャンプ」を行ないました。主に三菱商事の協賛を得て80回余開催したのですが、放射能に関する情報が共有したり不安を語り合ったり、またボランティアリーダーと意思づきり屋外で遊んだりする中で、新しいつながりが作られていきました。

●大江 震災がつなぐ人と人、地域、世界があることを「1・17」「3・11」という未曾有の災害を通じて痛感しています。さらに私は、そういう人と人のつながり、地縁だけに限らないコミュニケーションが広がっていくことは、防災・減災だけでなく紛争の起こらない社会や平和づくりにもつながっていく。地続きだなと思っていました。キーワードは共生。YMCAだけでは限界もあるけれど、つなげる発想はできる。平和・共生は災害と関係ないようで、つながりがあると思っています。

●菅谷 YMCAはもともとコミュニケーションに根付き、人と共に生きる中から課題を発見し、取り組んでいく団体です。

●大江 私はサンフランシスコの研修で、災害後の心のケアに大切なのは3つのT「Tears, Talk, Time」と学びました。死別や喪失を経験した後、涙を流し(Tear)、悲しみや痛みを言葉

にして分かち合い(Talk)、時間をかけて傷を癒していく(Time)。それが「命」を取り戻していく基本的なプロセスなのだ。この3つのTは、日常的な困難にも通じることで、痛みを分かち合い、傍ら(そば)に居続けて聴くこと。それは災害に限らず、一人で抱えきれない心の傷の回復に通じることだと習いました。

●菅谷 もちろん傷ついた人の話を聴く人もまた傷つきます。専門家の治療が必要なケースもあります。けれども魂の救済の根本は、傍らにいて共に生きようとする人の存在なんだと教えられました。

●菅谷 「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣き泣く」と示された愛と奉仕の精神にもとづいて、人とつながり、人に仕えていくことを使命とする団体です。

●菅谷 YMCAはもともとコミュニケーションに根付き、人と共に生きる中から課題を発見し、取り組んでいく団体です。

●菅谷 またそれは、今の時代のどんな活動でもYMCAが大切にすべきミッションでもありますね。本日はありがとうございました。(まとめ・広報室)

防災のためのネットワーク

●福田 そういった団体を日ごろからつないでおこうと始めたのが「東京

災害ボランティアネットワーク(東京ボ)です。残念なことに神戸では、互いに他団体のことを知らないために、誤解が生じる様子も目の当たりにしました。思いは同じなのに、うまく協力できないことも珍しくなかつた。それで平常時から顔の見える関係を作っておこうと、1998年にSVAや東京YMCAなど数団体でスタートしました。各団体の特長を知って

いれば、いざという時にお願ひしやすいし、無理なお願ひもしない。まずは顔を合わせるだけでもいいからと始め、その後は実際に、防災・減災の取り組みをするようになります。東京YMCAには共同代表を引き受

けていただき、帰宅難民対策や防災ワークショップなど各種のイベントも共催しています。

現在では社協や生協など約50団体が加盟しており、2000年に起きた三宅島噴火や、2013年の伊豆大島台風などでは加盟団体で協力して支援にあたりました。

YMCAが担うべき防災とは

●菅谷 これから未来に向けてあらためてYMCAが取り組むべきこと、あるいは改善していくべきことは何でしょうか。

●福田 特に東日本大震災の後からは、市民の防災意識が高まっていると感じています。メディア

の関わり方も変わってきました。YMCAはそこにアプローチしてもらえるといいと思います。YMCAが普段やっている活動の中にほんのちよつとだけ防災・減災の視点を

を入れてもらうだけでいいんです。利用者のためにもなるし、YMCAのためにものなると思います。また今、色んな団体が子ども向けの防災プログラムを開発しています。YMCAが作つてく

れたらいいものができるでしょうし、もっと社会に普及すると思います。

●菅谷 以前に福田さんの「防災まち歩き」を受講したとき、ちよつとした知識であつても、知っているか否かで命が左右されると感じました。

えがちです。でも、普段から顔の見える関係を作るワークショップです。防災の視点にたつて、近所の人たちと一緒に自分の町を歩き、災害時に危険な場所を把握したり、消火栓や備蓄倉庫など使えそうな資源を確認して「防災マップ」を作るプログラムです(写真上)。同時にその作業によつて近所の人たちとの関係作りも目指しています。そんなに難しいものではないし、体験すると面白いので、「自分の地域でもやりたい」と始める人も増えています。

●大江 防災・減災という「危機管理」のイメージが強く、何か起きた時にどうするか、何を備えるかという枠の中で考

えがちです。でも、普段から顔の見える関係を作るワークショップです。防災の視点にたつて、近所の人たちと一緒に自分の町を歩き、災害時に危険な場所を把握したり、消火栓や備蓄倉庫など使えそうな資源を確認して「防災マップ」を作るプログラムです(写真上)。同時にその作業によつて近所の人たちとの関係作りも目指しています。そんなに難しいものではないし、体験すると面白いので、「自分の地域でもやりたい」と始める人も増えています。

●菅谷 以前に福田さんの講義を受けた際、「大規模災害では消防車も救急車も来れないため近くの人たちが助け合うしかない」という話が印象に残つてます。

●大江 阪神・淡路大震災後、家屋の下敷きにな

った住民のうち消防士など専門職によつて救出されたのは25%に過ぎず、75%は近所の人に助けられたという統計があります。市民同士のつながりが命綱でした。

●福田 年末に放映されたNHKの「バラレル東京」の後、特に保護者の方から「どうすればいいんですか? 備蓄ですか? 避難ですか?」など

の講義を受けた際、「大規模災害では消防車も救急車も来れないため近くの人たちが助け合うしかない」という話が印象に残つてます。

●大江 阪神・淡路大震災後、家屋の下敷きにな

った住民のうち消防士など専門職によつて救出されたのは25%に過ぎず、75%は近所の人に助けられたという統計があります。市民同士のつながりが命綱でした。

●福田 年末に放映されたNHKの「バラレル東京」の後、特に保護者の方から「どうすればいいんですか? 備蓄ですか? 避難ですか?」など

の講義を受けた際、「大規模災害では消防車も救急車も来れないため近くの人たちが助け合うしかない」という話が印象に残つてます。

●大江 阪神・淡路大震災後、家屋の下敷きにな

た孤立しないように、たとえば「お母さん、疲れてませんか?」など、支援者にも声をかけてケアできればいいと思います。

●福田 東京には色々な人がいますから、見知らぬ隣人とは付き合いたくない、という気持ちも分かりますが、そういう人

にこそ災害時には助けてもらうことになるかもしれないことを覚えておいてほしいです。

防災・減災は、日常と切り離して考えるような特別なことではないです。日ごろから各家庭で備えること、近所と助け合える関係を築いておくこと、そして他人任せにしないこと。過去の災害で、命と引き換えに残されたこの教訓をムダにしてはならないと思つています。

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

●菅谷 「コミュニケーション」は、復興の過程でも重要なと思います。

●大江 災害が起きると、避難所で過ごしたり、仮設住宅で暮らしたりと、それまでの地域社会に大きな変化が生じます。YMCAはそこで人の痛みに寄り添い、人と人が支え合って共に生きる新たなコミュニケーションを目指して復興支援を行なってきました。

●菅谷 東日本大震災の時に東京YMCAは、原発事故で避難生活を余儀なくされたご家族等を対

【参加者募集中】

春休みのスキーキャンプ・スクール

Y M C A キャンプは今年100周年を迎えました！
いつの時代も「限りなき成長」を目指し続けてきたY M C Aに、今季もぜひご参加ください。

2月7日受付開始
(先行受付は2月5日～)



詳細はホームページで ⇒
http://tokyo.ymca.or.jp/camp/



キャンプ名	日程(泊数)	対象	場所	費用(税込)
TEL 042-577-6181 (西東京センター)				
ユーススキーキャンプ	3/26-30(4)	中1～高3	志賀高原	86,240
TEL 03-3645-7171				
江東コミュニティセンター				
わんぱくクラブ(日帰り3日間)	3/17-19	年少～年長	都内近郊	26,400
TEL 03-3420-5361				
南コミュニティセンター(経堂駅)				
チャレンジスキーキャンプ	3/26-30(4)	小1～小6	志賀高原	86,240
リトルキッズスキーキャンプ	3/26-29(3)	年中～小3	尾瀬戸倉	71,830
TEL 042-577-6181				
西東京コミュニティセンター(国立駅)				
シーハイルスキーキャンプ	3/26-30(4)	年中～小6	志賀高原	86,240
TEL 03-3202-0321				
山手コミュニティセンター(高田馬場駅)				
ゆきんこスキーキャンプ	3/26-29(3)	年中～小2	尾瀬戸倉	71,830
フレッシュスキーキャンプ	3/26-30(4)	小1～小6	尾瀬戸倉	83,490
エンジョイ&チャレンジスキーキャンプ	3/26-30(4)	小3～小6	志賀高原	86,240

【水泳・テニス】*日帰り 東陽町：03-3615-5566／山手(高田馬場)：03-3202-0321				
東陽町プール・スプリングスクール	3/26-30	年少～小2	東陽町	42,900
	4/1-3	新年少～新小2		27,500
水泳集中レッスン(東陽町)	3/26-30	年少～小6	東陽町	9,350
	4/1-3	新年少～新小6		6,050
テニスグループレッスン	3/30-4/3	年長～小6	東陽町	11,825
ブルースプリングスクール(山手)	3/26-30	年少～小3	山手センター	42,900
短期水泳教室(山手)	各期5日間	新年少～中3	山手センター	11,000

【英語】*日帰り 東陽町：03-3615-5567／山手(高田馬場)：03-3202-0321				
Kids' International Spring	3/26-28	年少～小6	東陽町	11,000/1日
Returnee Spring School	3/26-28	年中～小6(帰国生)	東陽町	33,000/3日
Returnee Language Arts	3月30日	小1～小6(帰国生)	東陽町	11,000/1日
Early Easter Fun!	3月22日	年中～小4	山手センター	7,700/1日

【感謝報告】台風15号19号被災地支援募金／クリスマス募金

下記の方から募金をいただきました。感謝してご報告します。(敬称略。アイウエオ順。10月17日～12月末日ご入金分)

愛洲 久美子
青山 鉄兵
阿山 剛男
有里 公德
飯嶋 農允
五十嵐 滋
五十嵐 和子
五十嵐 道子
井川 重夫
井口 延
井口 真
池澤 敦
池田 麻梨子
池田 信成
伊佐 節子
井澤 珠代
石井 健太郎
石賀 敦子
石川 憲彦
石丸 泰樹
石見 羽津映
磯野 景子
磯部 幸子

磯部 成文
市川 朱美
伊東 園子
井上 博司
猪股 智子
今井 武彦
イワタチツコ
殖栗 信夫
上野 聖子
内川 真名子
内田 博万
内野倉 千枝子
内山 雄治
江尻 明子
笈川 光郎
尾内 規子
尾内 昌吉
大野 貞次
大橋 めぐみ
小川 圭一
尾崎 久美子
尾崎 敦子
尾崎 哲則

尾作 聖子
尾関 知子
越智 京子
小野 洋子
小原 武夫
小原 史奈子
春日井 明
勝田 芳正
勝田 和人
勝山 健一郎
加藤 祐一
加納 貞彦
神谷 幸男
神谷 邦子
亀井 稔之
亀井 秀子
亀田 まゆ子
川浦 あさ子
北城 悟太郎
木塚 敏夫
キドカオリ
木村 浩通
木山 泰之

草分 俊一
工藤 ますみ
久保 直人
久保 重忠
久保田 貞視
黒田 景子
功能 文夫
河本 ツル子
越塚 眞行
後藤 信子
後藤 恵
小仁 恵子
小林 道彦
小町 正人
小松 佳子
小茂田 源治
齊藤 實
斉藤 和雄
斉藤 隆廣
坂口 順治
サカベクミコ
佐久間 進
迫川 由和

佐藤 茂美
佐藤 洋司
佐藤 信也
佐山 玉枝
塩坂 淑子
塩田 瑞代
塩野 秀男
塩見 哲郎
塩山 泰史
篠崎 佳栄
篠澤 忠彦
篠原文恵
嶋田 敦子
清水 敦美
白石 克人
神保 信子
神保 正男
菅谷 淳
杉野 正
杉山 忠弘
鈴木 雅博
鈴木 順子
鈴木 隆之

住田 学
酢屋 善元
駿河 幸子
曾我 芳子
高桑 豊
鷹取 正豪
高橋 伸
田上 正
多河 敏子
滝沢 頼子
宅野 喜仁
竹石 るり
竹内 聰
多田 潤一
橘 秀樹
田中 伸枝
田中 壽夫
田中 健治郎
田中 充博
田村 勝宏
壇 信一
千浦 維久子
千代 一郎

茅野 徹郎
司 久
柄田 毅
手嶋 裕
寺門 文雄
東矢 高明
戸坂 範子
戸坂 雅樹
富子 久夫
中井 博雅
永井 敏雄
中内 俊一郎
中里 敦
中澤 正子
長澤 弘
中島 二三子
仲田 達男
中富 のぶ子
永野 典子
中村 基信
中村 周三
中村 孝誠

中山 千種
並木 真
並木 信一
西澤 紘一
丹羽 芳雄
橋本 恵美子
橋本 耕治
橋本 徹
長谷川 あや子
服部 節子
鳩山 徹郎
羽鳥 直之
浜野 京子
ハヤカワサチコ
林 克昌
半沢 照代
日辻 節子
平野 葉子
ヒラヤマケイコ
廣田 康人
福田 一
藤田 智
伏見 拓真

藤村 美加子
藤本 裕
星野 太郎
前田 節子
前田 真理子
増野 肇
松岡 航
松尾 悠
松下 欽三
松田 俊彦
松本 竹弘
松本 数実
道向 久美子
三橋 信生
宮内 ふみ子
宮垣 淳一
宮崎 幸雄
宮畑 豊
三輪 浩尉
村上 光子
村杉 一榮
村山 徹郎
目黒 卓

茂木 なを子
持田 二郎
持田 光三
森山 真二
両角 幸治
柳沢 広繁
山口 千賀子
山口 雅代
山下 舞
山下 誠
山添 仰
山田 勲
山田 紘太郎
湯浅 慶
吉川 隆博
吉田 司
吉田 紘子
頼 仰史
渡辺 修一
渡邊 伸子
渡辺 善忠
※匿名3名

青木建設株式会社
上田八木短資株式会社
株式会社木村洋行
株式会社栗田建築事務所
株式会社タカサゴ
株式会社ツカサ・エンタープライズ
株式会社トップナッチツーリスト
株式会社万平ホテル

株式会社メディア・ボックス
株式会社宿屋塾
株式会社レクトン
共同リネンサプライ株式会社
社会保険労務士法人礎
シャロームの家歌声ひろば
デイル・インターナショナル株式会社
長崎大学Y M C A 浦山寮

日本基督教団桜ヶ丘教会
日本基督教団杉並教会
廣瀬ビルディング株式会社
マレーシア クアラルンプールチャリティー
バザー／チャリティーコンサート
ユアサハラ法律特許事務所
東京世田谷ワイズメンズクラブ
東京グリーンワイズメンズクラブ

東京町田スマイリングワイズメンズクラブ
東京むかでワイズメンズクラブ
グランチャ東雲「ふるさとチャリティー秋祭り」
東京町田Y M C A 市民クリスマス礼拝
東京-フロストバレーY M C A 40周年の集い
江東Y M C A 幼稚園
東京Y M C A 社会体育・保育専門学校

台風15号19号 支援活動続く



多数の報道陣が見守る中で開設された「まちの縁側」

台風15号19号の被災地支援のため、全国のY M C Aは各地にスタッフを派遣するなどして活動を続けています。東京Y M C Aは台風直後から長野市北部にスタッフを派遣し、古くから関係のある社会福祉法人「賛育会」豊野事業所と協力して災害ボランティアセンターの運営をサポートするなど、支援を進めてきました。

長野市北部は千曲川の決壊により広域にわたって被害を受けており、3カ月経った今も自宅の2階だけで暮らす方が少なくないなど、復興半ばの状態が続いています。そのため12月12日には中期的な支援拠点として「まちの縁側めくめく亭」が開設され(Ⅱ写真、住民の交流や情報交換のための「縁側」として、広く住民の方々に開放されることになりました。この運営は、賛育会をはじめこの地区の自治会やNPOなど12の団体が担い、東京Y M C Aもその一員として今後、各種の交流プログラムの提供を行っていきます。

2月15日には、清泉女学院大学・短期大学を会場に長野市内の幼児小学生を対象とした「リフレッシュ デイキャンプ」を予定しています。



東日本大震災後に東京Y M C Aが支援活動を続けてきた郡山市もまた、今回の台風で大きな被害を受けました。3つの小学校が浸水のため今も使えず、近隣の学校の空き教室に分かれて授業を受けるなど子どもたちの生活にも影響が大きいことから12月21日、ぐんまY M C Aと共催で「クリスマス in 郡山」を開催。ボランティア・スタッフ8人が郡山市のザベリオ学園を訪れ、約50人の子どもたちとアヒルホッケーやドッジボールなどで遊び、楽しいひと時をプレゼントしました。

■福島でクリスマス会

また東京Y M C Aの各部署では、学内で募金活動をしたり、バザー会場で被災地の物産を販売したりと、募金集めに力を入れています。12月13日には高等学院が、学内ではクリスマス会とあわせて女性デュオ「nutmeg」(ナツメグⅡ写真)によるチャリティーコンサートを開催。会場の「早稲田奉仕園スコットホール」には一般の方も含め約50人が訪れ、美しい歌声を鑑賞しました。



年末に会員関係者に呼びかけた「クリスマス募金」には個人・法人あわせて260余の方が協力くださったほか、1月24日には東京Y M C A理事でオルガニストの飯靖子さん等によるチャリティーコンサートが、赤坂の日本キリスト教団霊南坂教会で行なわれます。

■チャリティーイベント開催

また東京Y M C Aの各部署では、学内で募金活動をしたり、バザー会場で被災地の物産を販売したりと、募金集めに力を入れています。12月13日には高等学院が、学内ではクリスマス会とあわせて女性デュオ「nutmeg」(ナツメグⅡ写真)によるチャリティーコンサートを開催。会場の「早稲田奉仕園スコットホール」には一般の方も含め約50人が訪れ、美しい歌声を鑑賞しました。